



H19年3月15日 発行

発行人・編集人：MDMチーム

発行：株式会社 松前屋

大阪市中央区心斎橋筋2-8-1

TEL(06)6213-0084 FAX(06)6213-5172



皆様こんにちは！いかがお過ごしでしたでしょうか？
春になり、暖かくなってきましたね。先日、近所の公園で、桜の花が咲いているのを見かけました。お弁当を持ってピクニックも楽しそうですね♪それでは元気いっぱい本年初通信スタート！！

「小大丸」の謎

前回は「大丸が迫ってくる！」という話題でしたが、今回は「小大丸」の謎に迫る！をテーマにお届けします。さて、問題の「小大丸」（こだいまる）ビルは松前屋から心斎橋筋の南詰め、道頓堀橋に向かう途中にあります。大丸百貨店“街”からはやや離れて建つ雑居ビルなのですが、ビルのマークは丸に大の字で大丸百貨店にそっくり。コレって小さい大丸ってことでしょうか？大丸百貨店と小大丸ビルっていったいどういう関係なのか？

興味深々、早速ビルに潜入してみました・・・ビルのテナントは婦人服やネイルサロン、文化教室など、そしてなぜか常設の献血ステーションがありますが、中心のお店は「小大丸」なる呉服屋さんでした。「小大丸」を覗いてみると、畳敷きで奥に帳場があり高価そうな反物を積んだ棚が並ぶという、由緒正しい座売り方式。よく時代劇なんかで見かけますが、お客さんのお好みを聞いて店員がびったりの品物をお薦めするというやり方です。なかなかの格式ある呉服店と思われそうですが、しかし、大丸百貨店との関係は謎のまま。そこで、文献などいろいろと調べました結果、ついに判明しました！

まず、大丸百貨店の前身は大文字屋呉服店といい、心斎橋での創業は享保の頃だそうです。丸に大の字を書いて商標としていたのですが、せっかちな大阪人は屋号の大文字屋ではなく「大丸」「大丸」と呼ぶので仕方なく店名を大丸と改めたのだそうです。さて、大丸の創業後、しばらくして大和屋呉服店が開業しましたが、商標はこれまた丸に大の字。大阪人は今度は何と呼んだか？大丸より後に開業した呉服屋なので「こっちは小大丸や！」となったわけです。

米朝師匠の弟子が小米朝、船場の大店の三姉妹を

「大いとさん、中いとさん、小いとさん」と言うのと同じ感覚です。

どちらも創業300年になるろうかという老舗ですが、「大丸」は座売りをやめて陳列式にし、やがては百貨店になり、「小大丸」は昔ながらの座売りの呉服店のままと、まるで異なる歴史を刻んで今に至っていたとは・・・なんとも不思議なものですね。



○に大の字のマークの『小大丸』さんの看板

健康法師の独り言 パート 15

腰痛に勝つ！

昨年4月にゴルフで腰を痛めて初めて、世の中にはこれほどに腰痛で苦しんでいる人が多いのかと気が付いたものです。『脊柱管狭窄症』という、ヘルニアをもっとややこしくしたのになってしまい、MRIによれば何箇所も神経を圧迫していました。痛くて苦しむこと3ヶ月、整形外科に深入りせず手術をさけて民間療法に身をゆだね、痛みを取り通常生活に戻れました。

『ペトロサージュ』とか『ロルフイング』という技をご存知でしょうか？ フランスで開発された瘦身術ですが、これを整体治療に応用したものです。体の堅くなっている部分を回復させるために『ひねる』『剥がす』ということをするのですが、まあ決して心地よくはないですね。しかし、これで蘇ったので、皆さんにお伝えしないわけには行きません。

腰痛とはいえ、『まともな歩行になっていない！』として足首を中心に施術されること2ヶ月、剥がしまくられました。『外堀は埋めた、いよいよ本丸に行く！』と言われて3ヶ月目に骨盤を入れる回転させると、一発で腰痛が完治！これは実に不思議な経験をしました。

① 体が堅い人は『剥がして』でも柔らかさをだす。② 歩行のために足の指を開け、グッパアが出来るようになる。そのため5本指の靴下を着用すべし！③ 靴は先細は絶対に駄目で、着用時にも指の自由を確保する。（ドイツ製ビルケンシュタットを履くこと）

次回に続く。



ドイツ製ビルケンシュタットの靴と5本指靴下

松村記

